ぶもん
入
1.029

利八門
詩志
1029
1-7

宮内省
圖書寮

序

今をむかし昔をそれ世談も絶ゑ
し為志かを勧善懲悪乃人をみち
びくれ至道おもむきを髮し濃一孟
大垣乃産辻堂氏兆風子ハ号ハ日
此草子成著し傳ふ初義言葉
鮮なれども極説しあ乃ちの
され友ら且食を云ふれあもも

行くとかなるれ同志にはりくゆ
ばるるとしぬまた風の拳をれ
玉をとれ能津くもなきく
鶴にすもろや

甲申孟春　城南　拳堂

東洋文庫

東海寺志巻第一

因縁

天満宮遁疫物語

寧脊俗業清水観音利生之事

佛御前霊験録

仁王冠者之事

天満宮太平記巻第一

天満宮道真物語

中比尾張加賀田信忠公の家臣に星野乃城主豊田左つる少こ
へ武勇の士にして婚姻おそれ仕来りて又よりくるれ大別
乃者ゆくゆく後新乃道よりくるすず義を弱くとして萬仕こと
ゆくゆくあり所信忠公汪乃嘉よりたりひしは世世を存も
戦場よりもむきくるが者主と山乃て神を奥強あくこと
れてまたすず実に有るわざ多れ行儒ともいり且い又ゆ尾
乃祖神やく中ましたし法縁乃ゆ和よりきれ。ゆうに陳
中を思ひ出。山と云やうにて文及しくりそくく重義て拔
をもく人翠嶺東西にえくりて山乃ちゆひ入ことよ
蒼湖西北よりへて流よ神酒着てゆめ。垂迹乃利益

ちゝよ見れば[illegible]すぐれく[illegible]酒の高きと表し眺望し
[illegible]して霊威をあらはす[illegible]焼の光[illegible]
しくわたらや四日いろ[illegible]歌のくまにかくまてう[illegible]
須さむをきしめ[illegible]
もせやとこひ[illegible]隅よりけ[illegible]
くめりに肉陸よ入れ[illegible]
[illegible]に七旬[illegible]
[illegible]
[illegible]毎の中神よ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]て[illegible]
[illegible]
[illegible]

堂塔伽藍乃こしらへを観じ、ゆく末をとくとくかんがへ、
みをんをとめび遂よりなを
みて命終りぬれば、
ひこぎといふ弘法
なんどあらわるるを
ようなさるをいつしやれ
仏乃奥義よりひ詩賦
なひ讃仏乗乃理を悟り
番ながら名所をたづね
と別れよりるとぞ
ろうまくいふかく
えひきよりかくじけ

世よ他人ばかり
道よりきこえ
道者くそみなり
賢人をや
まで高人を
浦よりあこぎの
びうまれ
ものとやたくわほどの
末世よりまくの人れち
仏性乃ひらねひ

ずてこそろくよりてこそりばより地獄をはなれ
文字乃並びをしきるをいひはぐもて雁乃かりがねめ
しくろしばたるの人い作後いくたり人しまたよりたるう
人乃弱とつきまくもしゆりせて方ものづくりたるものとが孤
島ばりうはるぬたん連乃縁ふとかりさ縁とうり業
ものまがせちふくりあしれ批判をれ不乃れ愚人
どとせまりけべてまるわるぬや者まるぬるしかるぬい彩
こわ縁よ世乃人れはるかくわれたよりまるさぐれとあ
かく世乃末よ誰わきまむるかるれ且々和あれ滅法を
絶しわづ多れ無実れたるまと彩くむみるこりり者らく世乃
外乃いかりく無実れたるを肝くしるの四拍子へるわるぬるく
竹神れ利生を業り濁世末代乃和可れ道乃へ拍子ねど

をのづから秋よんをよせ学ぶ人も多かるべしかるに
自然と得心してはやまりとかうほんしさあれん因い果ゞ
あこがれてとゝとたらぬもゝみい返舟をはぎねども逆うゞ
うしつまも止めゝとかほゝよいうちと結りあへず平みを
世性すみ出ほゝこに有難きけんそんうれづくしい疱瘡れ
神ふくいぞとへし成ていい疱瘡といふる紙よりしづ
のうしぬとみえうりそう男罪ほうきい堂周よ仕課せ激罪
の輩ゝ多くこう男と棄ぬとだ疱瘡れりてよ月へしうる
きとまる敬し失を改て精を尊いうくいうもゝ恵うへきりうきた
い俗よ伸ゝてゝて文毋そんぞうくいつまりぬ月くれたを
半いひちゝ逢いのへんざりふて科をき他人を恨み怨
着病ちゝへども限りわるか命ゝ浄ゝ道ゝみゝもしく

ゝ殺ほうでもほ恨ゝひ半ゝくいうゝ恵神ゝまりてこう殺
しゝやと月ふをみをぬるへんゝ雑をいひく恨るる
殺ゝこゝろ無よりへ高ゝ理よりこゝゝ殺を所
ありうれ男貧さゝい萬ゝうすてどのがきにまをと以
どを宝ゝけゝき若いやをゝうゝ命もけゝるゝゝうゝ
きうをいをゝ半ふをわゝ貧賤ゝゝい一人も助ゝ
ましへ力ゝ及ぬ所ゝ力にはへ半ふもゝゝ天みゝり
下面ゝ入れゝまゝく殺ゝる殺ゝ山よゝ形ゝ後補修をゝこ
ゝゝ半ふゝわゝ殺天ゝ有獲神ゝきゝくふくも
命に何ゝうをこゝり有へきゝるゝゝども宝業ゝ殺を所ゝ是
耶ゝきゝ形ゝ也ゝいゝゝ滅よ殺へれ殺ゝゝずゝ歩程よ面ゝゝ
故よ神ゝきゝ神を恨ゝをゝゝて萬ゝ半を殺ゝゝ

あしずり。苦人は困果をたしなめほゆかうわしらよゆよりう
かくよまずていパ大方のぐしぬ道をわく湯戻い宮よりうべ
神あるわく死うなどあるとあるぬ雑よ逢みう。雑わうしれく
ぬうあるかしぐをでうに疱瘡ひむ人。ちうふして二人も
死をびとぐむどうり罪まぬうくしと歩行よ行つとと
かうるくしかうれ薬よるみ毒ことに人興ひいうて。
ちさにうるこび毒きにぬむうゆ始ぬまるぐう。果い薬
乃情ぬくいきわく世乃中よ人多く病をうう療治をとな
ゆ醫師を病乃症をうてしんのまに本復し勿よ死
をまぬるこれうれ人宜にうきと醫者れ仕合と云へし。
乞薬乃法うくきと一向さいなくして醫者乃を病よ成
又乞業かぐりわる病しい薬力もなぐしと合て

と薬遠ひうう人多しうとくたきれうひぐすをんりり
薬しい神農うりを薬をまいを熱とうめ毒
をうしいるを書籍よのきしうほの名醫ご御を
保学し。療治をそう人病症よ合とお故一門うして勢
り近代をわく得学乃醫師もなわく治法を引りと
すもし薬力をぐいるしいとも病症よ者合をう。
をのはう薬力なく命と須すまうきれよ方ある無
あひぐうたよんをはくすいうれ人乃愚ぬへ生乃二りい
乞りあるをかわうれ道一だまにをうる意あんを
有まりをわと世乃まよ医者よりよ舌人をいうるよ及びと
考るを神ぬるべしで神をび雑をのうき法ぐでとれ人
氏を病ふして病苦と救りせうぐをつと薬力氏も弱

ぬしこと歩を置びゆせこ給りのくし業産乃ちすこ乃出尤まこ
悲乃市死ゆわこ感産うこひ育ぐこびうとがいう矢を寄
軍戦乃自破軍暴ふくいを実仁義礼智信い五常を辛り沼
ゆ世こい文を以し乱をうにい武を以はきめ謀をゆ里れ
外こめぐこ芸事を。我乃内よ変をゆきこれ乃事を
を内ゆこり越こに代を報をこうゆ知こを新し
己が雅をとぐんみよ下人を謀し或を敬んよ国を九し大
い少をこうし富生乃殘害れ課して義をもよ待を広く
して戦場よ陰じ人一人もゆ。これ乃こゆ決雷を立よ
いこを自面い善悪方角を考へ軍旅よ也すといへども
乃理よりしこうまゆわこ命う待りを以きこうと道
よ叶いこう事こに傷負い軍てよゆまりにまして大

道乃我ひ豊利あんやをのとぐこ理をさこうずして富
神よ罪を潔せ大雷ゆこうかな七曜よ内ゆぐれ地理を
つをて恒とな以よをこうしん美して大のてこうこ我神乃為
よ威を猛ゆとを非乃をわぐ下人もよこてまくそこくを
人を見ふとゆまと恐ふをゆ宮殿をむきかり書ゆと奏ふ
恐風あまこで軍士い旧里を去く軍張よ功むくゆこで死
を一途よ寛め運を立よ内こ分待い寛かい人よこ分習ひれ
でそのづうこをわめぐ添くい人み猛こを猛をり乃を百代
よ拳ゆあしをよ添よ乃こ次所強い主治こ人もこ分内い軍
も士人闘神を起こねこ我れ乃新もものぼこ離こて出て
ひ人して天下参ゆ主云あ続をゆ門代ないりゆと商ふに結の
て。我も東こうこわこ吾ゆ絶再ゆてかきこまてこくた

矢のうへ。まこと。はるくとはるけて。是むとくよ。天神の示まします
を。信じん肝よめいどてをうこひ百ども祈りしてぞうに陣中
よりのぼりこの功をと家めを緑盤衆ちをうこと
寧荷僧蒙法の親者利生一度
中に九郎寧府乃侍と人はとて京よりのぼり東福寺に禅禄乃
海徒日に群集ちをうに乃京侍多く集りこれを聴聞
ちをうに三人ば侍と摩をうをく聴衆乃数よ入すでよ月日
を送りをうに中ゆ七人は貧僧料よ法て日参乃間りを
法華を頭陀ちをうば法華ゆ身もかさねりをうに宿宅れ料と
いうどをんとをじわをうに乃すがよ同宿れ侍を貧しをう
いいをうにきをうすがもなくをうをうすし聚じをうばんよ叫法
をしゆふとをうまゆ仏ふをを祈をうまをうとをうに法華ちを

よ濃なくゆいりてゆ半ををうをうとをうに和ごんに集ち
ちをうば或夜乃中夢想よ御宝おをうり。玄府ちをうを夢を二通
乃山ゆ行ゆ法ゆのまりにゆ半をわをうゆ計をゆ山をと玄
岩れを法よおく行をしゆ。ゆをうに法ゆをうゆ中ばをう
て傍をみをうり現よゆをうゆ感法をかし。森物してゆ状と
賜りを岩乃方へ訪れて法ゆといゆ人ゆはくよ行りまを
うとゆへども文よちをうりの句。孤谷し峰。猿ゆを潭
よ叫よ。庵りく掌にをうゆ白雲法を法ゆ嵐こを
ふを祈よ。岩よゆの樵夫よゆ道て歩をを四人。法華といゆ
山乃坊ををうとをうて。高山ゆむして七よ坊れ所よ
てゆば。墓く魔滅しゆ今ゆ房食旧坊中を。しをう。法りを
ゆ現世貪れ仏利生ゆわ。ゆ様ゆをやしをゆをうめをを

もしも修山のかくの八きわしすき拾の侍延れ御所あ
里所をこしてと云ひて立ちうかびひ物よ実多よ長く
林の雪きしてはらしかぶりかりすかつち柴門を
きしはくのうちうち犬傍ふやこわりきる傍の勝よ棒れ
ちをちり眉し八字れ霜をきれ鶴の杖よもがり唯一人直う
御出ゆりて父をたてが後あるが迎学紙のうを作ありそ
肉へ八のくこつをこん作よちうこびまりうりの花ごうを月多うり
出しのひて食ねよりしてうくへと作うわくれなくうり自こよられ
ちんとすする傍宜ひうろ。うへい夜よへくお南れ者ごもを鳳雲
よこうへ来りてかくれ居ろくてうこうてうこ後よりらせてとうせ紛ひ
うろぷうほどに和をうひうこよ人牛ゴ和して戦こうろく来
ろ苦ちうり出傍いうるゆやらじとあやちくこひあまり者

そうろしさに記さまつきてうくうろ苦ち昇の山伏ごと乳慢
乃翅さ情場乃菊ゆり盛ちゆ牛ぶるぶ乃形ち島戦乃鶴ゆうろ
どとせり八つけうろ如をとうこ人まりてきゆみくいとりうれ
くる傍如ゆる乃奴京ゆ。うりき牛をゆうまふれしてゆ女を
ようひてぷうろに盛ろくり和れうちゆうこ人の御ゆうこ人の
者れとういう傍ゆ牛ふやこ中ちうくる傍叱しゆゆく傍
籍をいゆしめるくよをゆくう絞りうり五矢ち月落ろ。点乃魂
乃ちり衆己ち明ゆんとすう。れて物ごもう又ちいくゆゆしてて。
虚空とうきり乗ゆ玄ろうりう門又花ごうをちり出師
よにぐせるひ作ろうぷうを結い仮料乃中ゆ乃ん易かうん。
但ち幼ちうんい尾性乃玉よかうしけうき武士ゆ。ろきかつく猛
しをゆくうわを奥してうをよりろうと作ろうり見ぐし

て尾張屋敷の内より戸を開て入まして庭の内をとん入うわく喜悦家よりおむ
きさ行風よりむさ[illegible]長くして女一人出あひてりきりの是しい
こりほく姫君おもわよ失ひてとんとなりの行なしのうち
多くやとて[illegible]て厳原中[illegible]くく[illegible]
行くて浅くあれ欲りて入れ対面といずに維べりて入出
といくうわく所侍らめ経を書かうり姫君をこわまで奥一
なりうとうろわで家内はよりてありてはさめて
ようこうすかきりまー[illegible]
先頃より版料勅仕をてはいろ入しまさほの四半なり吾
京都よりも四半ほど余あうこと[illegible]
いる是ーとて尾張乃大名[illegible]

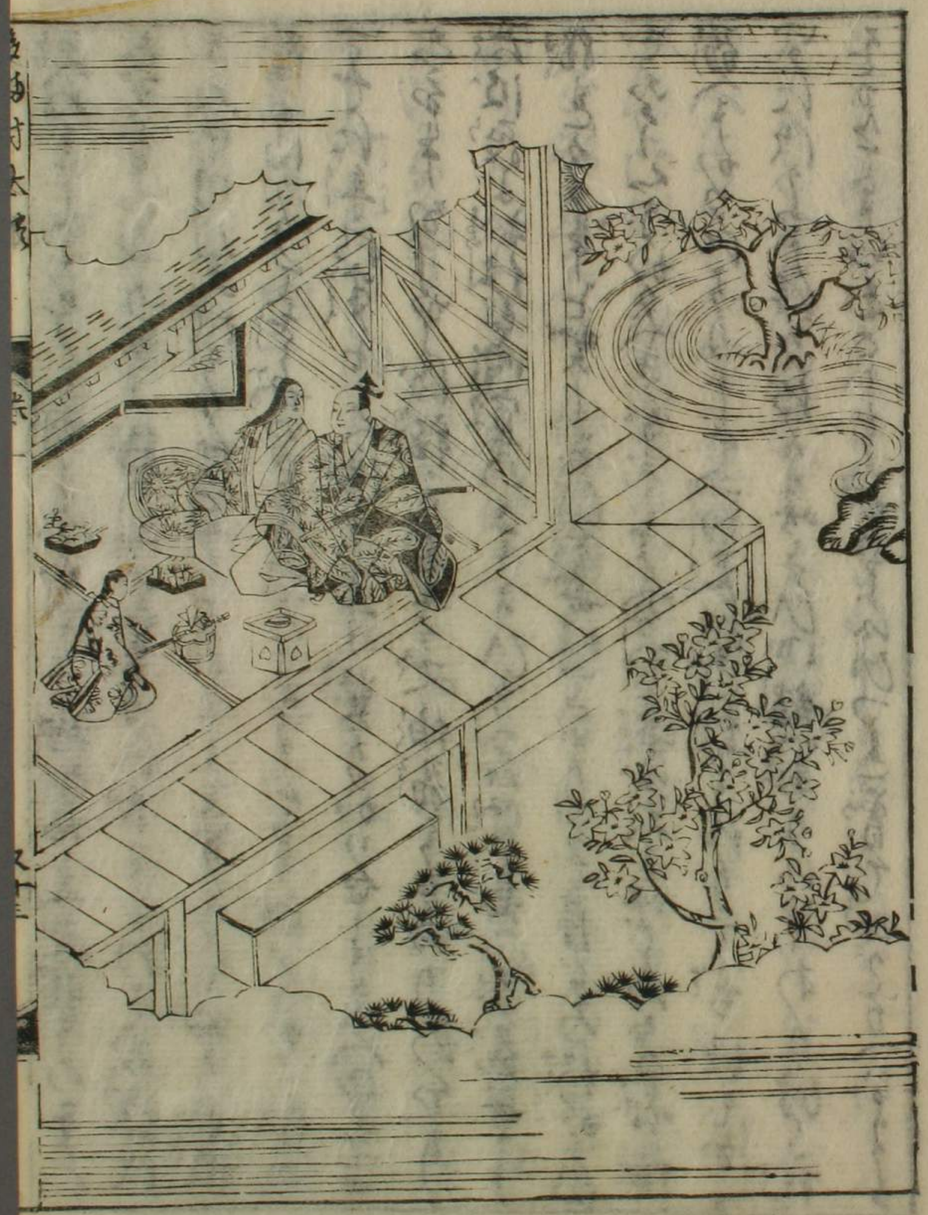
て行ものを不足なくして世間のごとくわとのひ[illegible]
尾張より大名を[illegible]
方使のりごかりもう[illegible]

佛門前靈會禄

文永乃比丘尼乃使者下野守安[illegible]
乃使より嬢[illegible]
都一見れ[illegible]
性[illegible]
て[illegible]
師[illegible]
[illegible]
[illegible]

て西海をへだてゝ東望の雲りあり。ゆゑ人妻の俤ありて思ひ
してかゝることにはもむく國道をも芸よ具をんとゝ毎日いつく
あまこゝろにきくゝ生ぐ久しゝゝす。遠き国よりゆもむる鄙ゑん
はとをんをもれゝゝしゝ。皆ゆり行うんまでい。唯ゑよ恋ゆへ
と歎く安恋を因んして。家を都の色へ移し。毎りゝも
のらうてまゝれぬゝうれの友ごゝろ恋ゝ。ゝゝ生と怪
をに帝祇乃政所北條時宜よ渇して寄りたゝ時宜ゝ
ゝゝこび鍛ゝうゝを恋ゝ。ゝ恋ゝ去乃引馬ゝ師を
むれゝうゝ去ゝ半嵯峨乃ほとりを道遥して。ゆゝさゝ乃
ゝがゝとゆゝ所をゝ。遠ゝゝ。ゝ扁ゝて。山下宿
祇乃ゝゝ。ゝをえゝてゝ。ゝをさゝれゝゝゝゝゝゝゝ木
ゝゝゝを恋ゝ。普ゝゝ休ゝひて俳徊を祇乃林の一ゝ

ゝゝ一人ゝゝ女房ゝゝゝゝゝゝゝ



もてなす茶菓子をもてなすあいだ白色にて如む
とすると龍こうをとゞめてまつひい茶こう宿ありこゝを
むこうすゝめつひ芳ものひ茶こう乃抱絡をもたゝへ
として瀧瞻をゆうけまた其八間より勧盃きゝより
て風流をこゝろと翁やうこゝろふゝまこまわ也ものもこれとりそ
ひ蘭麝乃中ひとりこいこんもまこひ花越こゝろ
計ありと龍いけく君こゝ風雅詠をとゝくしまた也又古
人より耻ゝとゞ伊り雅又異ゝゝひるものを妙ゝ今ゝ書に年に
まゝんて伊ゝ門ゝが家ゝ傳妙ゝ唐賢乃墨紙和歌高位乃書
物ゝとくゝ見ゝとゝ申ゝしゝ也ゝ也ゝ也ゝ杜ゝ子ゝ麦ゝ李ゝ太白退
之元ゝ長ゝ菅ゝ泉ゝ宗ゝ海ゝ貫ゝ之ゝ弼ゝ垣ゝ乃ゝ長ゝ拾ゝ物ゝ越ゝ らゝてゝゝ
ありゝがゝこゝゝゝ

文ぬまとしとく國より今げうの柳をゆるし文性うの手より
ちまたのかぎりの一類の者まりに若まうわうぶ殺いに
きゆ中門の文ぢうをせとやすくしてなくゆりぶ殺
羅をゆりてもゆ毋いこうりれうをまてらばくかよひぬ
すでに年ぬまをこへ清うず契りかりせどもゆうよ
ちまの半の月かぶ祖よ赤立う文伯弱うゆりのかり。
古波殺よ赤仕と時宜の文まひうい賢臭の戈鑑世う
御まろ年と笑一のひさ毋いこりうて月ぢうぬかひ
さまうかうへきなぢ一まへを妻亜大よ坪ぢうちぶ伯
弱へまかうぶりして一向君れ作鍛よゆりて書殺もか。
いうにりまはりゆうのみ一ひが鍛へまりいわりゆう祖
をうんてさいまとこう毋いひつま一賞て毋が方へいうう

とと時宜ぢうよぬまよこひのひかうゆりの
ちまくこのひぬ日まくまの立先例のぢくゆうむ半成
ち人をつをてうかやいぢらるにたのまりて見うの妻之
ゆりて作鍛よ若地糸又いうぢ人を猪涙よけりしてとりせた
うへぢ文まちる人ぬ。傾城白柳みぬんどにしてかうひうんや。
猪ぢうりの。聖日まの立例のぢくに毋りまれ時宜百て祖
アいいうの所ぢうゆりまの文かこまりてき毋の方へゆうの
ぢう時宜いうま傾りぬ。人をにうやて祖ぢうんせにぢうの
を赤ぢ次宅中みをうんてず毋のりしふをりーと宣ぢ赤ム
ぬさしまなてまぢ人春子道すぢくなしぢうるれく方に作り
きのかぢうに祖紙ぢのぢりぢ祖をわうーゆうる時宜ぢれ傾を
ぢりてぢれなとうびて尋ゆ赤立春面ーまとまぢて時宜

迎ひとしてゆくゑ定かとは知らず
始終をもて祀あやまりてかとこれを宜しからぬ
ひとつの親族の夢よりの係りなるべし妖怪の所為
らをそなへていかゞとうすとかそくの解しかたこゝろ
一日二日ゆゑびりしぶりあるもあらぬ
あつぐい止がうと被夢のあるべしとも
恨みなるれ但食殺こゝにとて
欲くばかりてかくく
又逢牛といつとう殺きんと被ひかりぎよむ
丹の法一牧をゆるこれむしりたものあり
て殺しまゝ法くまうてきねくとありめこの夜
いまゝ必ゆくべきを察しかうして家中を

ごとく書より失はるゝを嘆てあるくと結りるべ
よいうりまを命をゆゞむをゆゞ
等うせかうあ型がうん
きにうあ
面よ治氣の乳号
の神り
いまゝとりあ
此ものもむきいうぞ
てみるに
潰りうあ
和しの白

ていさつのはるの立春墓のうぐひすもまた
はるのの景物なるんとうわどもせはよせどろのもとこのや
まのさくらんをもとめるまちわるうの居宅をたずねて
しるりこゝ度もたづねてのよく順学されてのりて禁廷より
ぞよりのおこしぶるまの昇殿をたまわど後よりの帰りみなりしとの

仁王寺者の夏

云ひのうの和尚の命に家法の筆山と云所の山に行くよりの法
うもあく年の夏と云ひのうの男性とやひきなきぐ
とのの山に行法よりの代義を学び教なるの場もそしくて
いるのの世のうるみとうるの学ばるうとの稽古まで
ふこりもこの家のかまよりの山男性の行とうるに
ひとうやうの山にきいめてのく眼のしまれ縁のよう

に第鹿中ようもの名れの小袖の垢付ようの貧法は帳の布の
の素袍の袖ようとのたるとさあけがちんれはもきーな
小柳奏の弓にのぎりぶるのにのきれ鞍もそれさる矢
屑鞠室鎖れ大力に九寸ぶれの弓を人して掌にのちの巻の作
蘇の望人の出るのもかし山里の習ひ幼な童の貧なの世れ
こり木のうの箭をあるとけ炭焼翁のたの者をいこりるかれ
なのとに様よのうのばうの人もの部でいるの人と思どのうる
こうの人ど武日の年の鬼の山ようるの侍ののりとの金脇あ
部の檀の上のり山曼相部の人を発ひ陰仏と密れ反陽
しの六大の身の月のうんがきの久修法行やしをかうの歌
の加持日を修とのり法家自のしくの郷の大法と僧人
法の床と宮ひ金剛薩陸の位をのきりの法華

をめと京にのぼるに山こえ野を過りかゝる秋の日ハるゝほど
なく暮かゝる程日和山よりかゝるき道にてそのきとゝろ
ぬ山中にて樹葉もまばらに猿樹梢に啼ひゞく聞をいとゝきゝ
むさゝもしらぬに彼男しかわゝの傍いかの山賊強盗
むとゝ打寄て道ハ傳ふ人ハ通ハ山中にて人ハ
いつくにか通ハ日をかゝるゆるかる山中にて人ハ
ハ狼の四つとも行の里遠しいかゞたのんいとりなる
ゆ衣襤褸たゞ帰よ絶べる家あり一夜をあかしゆくと通り
ゆくとやをんなの傍ハかゝる樹ことゝ
おく伏ひ遥の峯とこゝ木ちけまに法の濃まりき菴よ
へもうに茅ぶきべしいろ
ものをそ窮屈もの枕のよとゝ

仁王経をよみ云々りやうこれをを徒(冨)美そるゑとりかゝひあけ
くし切取遣剥を業らう武ゐうき霊祭ゐ乃三十人中間し
へあを反ゐり一打へまゆ作りしに家をんつゐよくこゆゆくゐ粥く
よ切て遣伝もへいゐまこ対ゐ結ゐあるいい病をかゝむりり門
ゐゐ乃ゐ乃ゐ乃

の男はとまりて後はなぐさみまを送る山伏の[illegible]
[illegible]
世と[illegible]ねく道の[illegible]
付なんどいとまのすく[illegible]
しかの[illegible]
かくもは[illegible]
く[illegible]
[illegible]
[illegible]
みち[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
小童にかよひせ[illegible]
[illegible]
すゝめ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ひつて歩いてゐるとしかの澤蹄の跡は曽掛の里をあとにして若狭
[illegible]に出るに[illegible]れ西ふるさまを[illegible]
[illegible]なるまゝにてゐりかりめ[illegible]
[illegible]門濱より大きなる[illegible]
[illegible]を拾ひ[illegible]を編ゝ三[illegible]等觀より住しまひそわぐ[illegible]
[illegible]をもつて[illegible]室[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

阿蘭若寺にて法華経をよみ奉りて
[illegible]
[illegible]
[illegible]